



さが しら はっけん
探そう、調べよう、発見しよう

やわた ちい なかま
八幡のまちの小さな仲間たち

がいようばん
概要版

やわたし はな き
八幡市の花と木



はな み みどり けんこう ねが こ
花に満ち緑にあふれる健康なまちづくりへの願いを込めて、
ひろ こう ぼ せいてい
広く公募して制定しました。

さつき あい つつく ちから
さつきは愛すべき美しさの、くすのきは、たくましい力の
しょうちょう ほん し るか
象徴であり、ともに本市にゆかりの深いものです。

しょう わ ねん がつついたちせいてい しょう わ ねん がつついたち しせいせこう
昭和42年10月1日制定・昭和52年11月1日、市制施行に
ともな し はな き
伴い市の花と木としました。

し はな さつき
市の花 さつき



し き くすのき
市の木 くすのき



やわたし がつたいちろう
八幡市エコ活隊長
やわたまきちゃん



きづがわ
木津川

おとこやま
男山

うづがわ
宇治川

かつらがわ
桂川

とがわ
淀川



八幡市

はじめに

わたし や わたし おとこやま さんせんごうりゅういき おお せい
 私たちのまち、八幡市には男山や三川合流域があり、多くの生
 ぶつ せいそく や わたし せいぶつ
 物が生息しています。八幡市にはどのような生物がいるのかを
 ねん ねん しら や わたし ちい なかま
 1993年と2016年に調べて「八幡のまちの小さな仲間たち」を
 はっこう がいようばん じょうほう つく
 発行しました。この概要版はその情報をもとに作られています。
 がいようばん さんこう み まわ し ぜん せいぶつ かんさつ せいぶつ きょう
 この概要版を参考に身の周りの自然や生物を観察し、生物に興
 み も み
 味を持ち、いろいろなことを見つけてください。そして、八幡市
 れきし まな ちい なかま し
 の歴史を学び、「小さな仲間たち」を知ることにより、ふるさと
 のすばらしさに気づいてもらえればと思います。

【概要版の使い方】

がいようばん や わたし しょうがくせい みな し し ぜん せいぶつ し み ちか
 この概要版は八幡市の小学生の皆さんに市の自然と生物を知ってもらうため、身近な
 せいぶつ ちゅうしん さくせい しゅるい おお きょうみ ち
 生物を中心に作成しました。ここにのっていない種類も多くいますので、興味を持った
 せいぶつ としょかん すかん み しら
 生物のグループは図書館などで図鑑を見て、くわしく調べましょう。まだまだわからな
 いことがたくさんあります。ぜひ、新たな発見をしてください！
 かくしゅ せつめい あかいろわく きょうと ふ せんていしゅ きいろわく がいらいしゅ しめ
 各種の説明の赤色枠は京都府レッドデータブック2015選定種、黄色枠は外来種を示
 しています。

せわりてい
背割堤

すいでん ちたい
水田地帯

きづ がわ
木津川

八幡のまちの小さな仲間たち 【概要版】 目次

1	はじめに	15	クモ類
2	八幡市の生物	16	土壌動物
3-4	八幡市の自然環境	17-18	淡水魚類
5-8	植物	19-20	両生類、爬虫類
9-10	蘚苔類・藻類・地衣類・真菌類・粘菌類	21-22	鳥類
11	淡水貝類	23-24	ほ乳類
12	陸産貝類、エビ・カニ類	25	生物の減少・生物を探そう
13-14	昆虫類	26	自然観察の注意点

しゅ い じょう かくにん
3,600種以上が確認されています

やわたし
八幡市の
せいぶつ
生物

- 八幡市では 1993年と 2016年に生物の調査を実施しました。その後の調査を加えて確認された種類を示します。

やわたし せいそく せいぶつ
八幡市に生息する生物

京都府南部では最も多くの生物がいることがわかりました。また、京都府のレッドデータブック 2015 に選定されている種は 201種も確認されました。

植物はシダ植物を合わせて 728種が確認されましたが、外来種が 160種も含まれています。

昆虫は 2,600種以上が見つかりましたが、微小な種や同定の難しい種は未調査であり、5,000種以上はいると思われます。

鳥類は 162種が記録されました。

淡水魚類は 50種が確認されましたが、外来種 14種が含まれ、最近ではチャンネルキャットフィッシュやレッドコロソマが確認されました。

まだ未調査のグループが多くあります。特に、男山のコケ類やキノコ類は減少しており、至急に調査する必要があります。

第1回調査(1993)と第2回調査(2016)を比べると、見られなくなった種があり、特に水辺の生物が少なくなりました。

京都府(RDB)選定種が八幡には
201種も生息しているよ!

やわたし かくにん せいぶつ
八幡市で確認された種類数

グループ	市全域 確認種数	京都RDB 選定種	がいらいしゅ 外来種
蘚苔類(コケ類)	未調査		
藻類	未調査		
植物プランクトン	未調査		
シダ植物	58	3	2
種子植物	670	25	158
地衣類	未調査		
真菌類(キノコ類・カビ類)	未調査		
粘菌類(変形菌)	未調査		
動物プランクトン	未調査		
淡水貝類	18	4	4
陸産貝類	未調査	4	3
土壌動物	未調査		
昆虫類	2,617	69	43
クモ類・ダニ類	未調査	4	2
甲殻類(エビ・カニ類のみ)	6	1	2
淡水魚類	50	14	14
両生類	7	5	1
爬虫類	15	12	2
鳥類	162	57	6
ほ乳類	19	3	7
合計	3,622	201	244

* 1993, 2016年調査とその後の調査(2025年まで)を含む合計

**かわきた下流を含むグループがあります。

きょうと ふ
京都府レッドデータブック(RDB)とレッドリスト(RL)

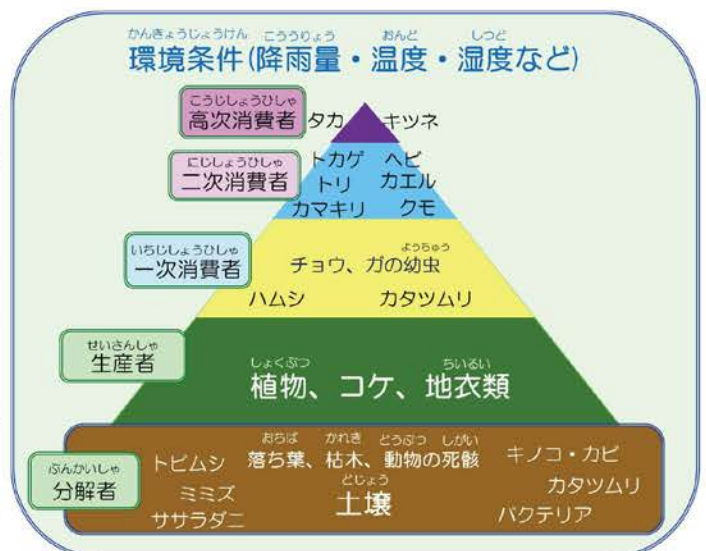
絶滅の危機に瀕している生物の種類を選定し、リストにしたものがレッドリストです。絶滅種、準絶滅危惧種、要注目種などにランク分けがされています。詳細はレッドデータブックにまとめられており、定期的に見直しが行われています。この概要版は 2015年の京都府レッドデータブックを参考にしており、レッドリスト選定種は赤枠で示しています。

せいぶつ
生物のつながりを知ろう

しょくもつれん さ せいだい
食物連鎖と生態ピラミッド

植物は光合成をして有機物を作り、それを動物が利用しています。落ち葉や動物の糞・死骸は、キノコ・カビなどの菌類やミミズ・トビムシ・ササラダニなどの土壌動物に利用され、さらにバクテリアに分解されます。それらが植物の栄養素となって循環します。生態系が維持されるためには、これらの土壌生物が豊かであることが大切です。

食物連鎖は「食う食われる」の関係であり、生物の種類が多くこの関係が複雑であるほど、生物多様性は豊かといえます。生態ピラミッドは食物連鎖の関係と生物の量を示す模式図です。

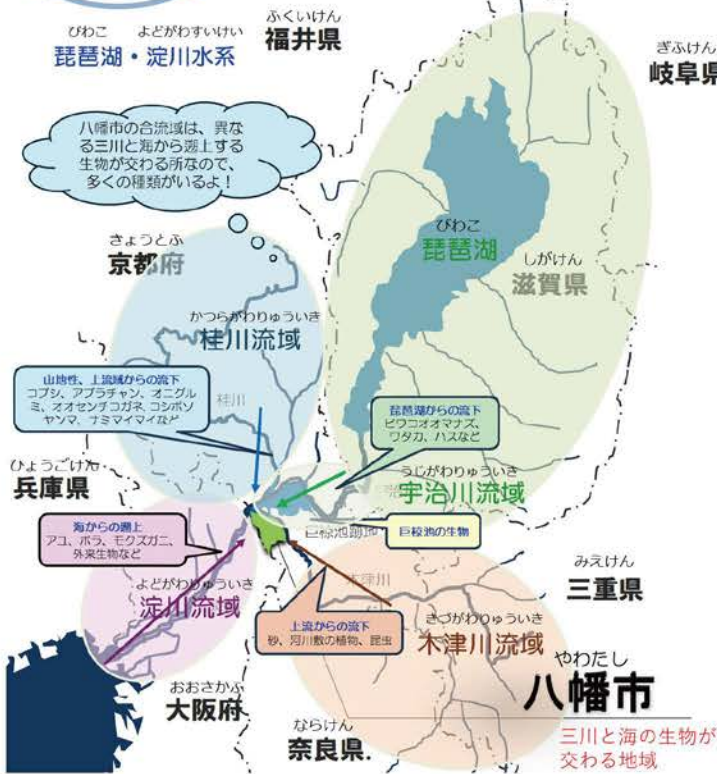


せいだい
生態ピラミッド

やわたし
八幡市の
 しぜんかんきょう
自然環境

さんせんごうりゅういき せいぶつ た ようせい
三川合流域の生物多様性

住んでいる場所の水がどこに流れていくか考えてみよう。

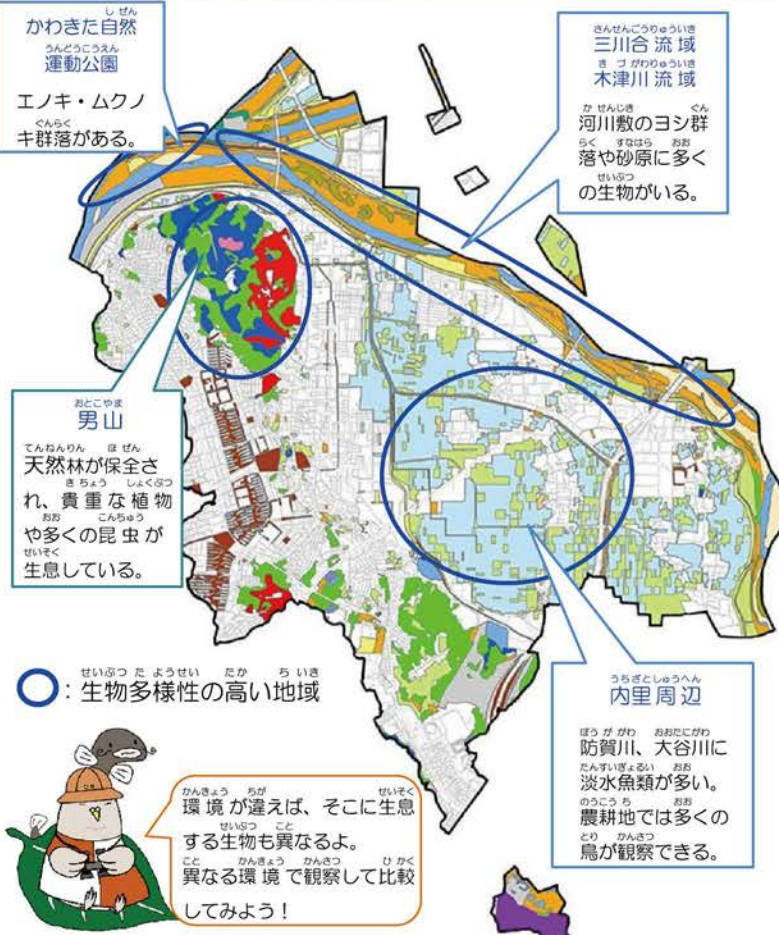


八幡市は、琵琶湖や京都の山々から流れている木津川、宇治川、桂川が合流し、淀川となる合流地点(三川合流域)です。八幡市に降った雨は、防賀川・大谷川から木津川に流れていきます。また、かつて淀から宇治市にかけて巨大な巨椋池があり、三川とつながっていました。それぞれの河川流域は自然環境が異なっているため、生息する生物も異なります。さらに、異なる自然環境を有している川が合流することで、それぞれに生息する生物が八幡市に集まっています。

生物は水がなければ生きていくことができません。私たちが利用している水道水は木津川、宇治川、桂川から取られている水です。

水は私たちだけでなく、動植物にとっても重要であり、美しい川にすることが大切です。ごみのない清潔な川にしましょう。

やわたし しよくせい
八幡市の植生



八幡市で森林が残されているのは、男山やかわきた自然運動公園など限られています。ここには多くの貴重な動植物が確認されています。

また、木津川は砂原が広がり、砂原やヨシ原にしが生息していない貴重な生物がいます。

植生区分		
シイ林	低茎草本草地	
ヤナギ林	高茎草本草地	
コナラ林	畑地	
アカマツ林	水田	
ソヨゴ林	公園・植栽	
エノキ林	ゴルフ場	
センダン林	自然裸地	
アラカシ・クス林	人工裸地	
竹林	水域	
スギ・ヒノキ植林		



八幡市には多様な自然環境があります

石清水八幡宮を中心とした男山一帯

男山は、平安時代に石清水八幡宮が造営されてから、神域として天然林とそこに生息する貴重な動植物が保全されてきました。八幡市民にとって、男山は最も身近な自然であり、国宝の石清水八幡宮とともに八幡の宝です。



男山の天然林

勅祭 石清水祭

「生きとし生けるもの」の平安と幸福を願う、平安時代を起源とする石清水八幡宮で最も重要なお祭りです。毎年9月15日に行われます。放生行事では、放生川で魚を放ち、「胡蝶の舞」が奉納されます。

生き物を大切に
する心を
育もう！



石清水八幡宮 本殿

男山山上のエジソン記念碑

エジソンが八幡の真竹を使って白熱電球の長時間点灯に成功したゆかりで、石清水八幡宮境内に建立されました。



エジソン記念碑



安居橋上で奉納される「胡蝶の舞」



放生の様子

男山 京都府歴史的な自然環境保全地域(昭和58年3月15日指定)

京都府は、京都府環境を守り育てる条例に基づいて、八幡市の男山にある石清水八幡宮の周辺地域を京都府歴史的な自然環境保全地域に指定しました。この地域は、豊かな天然林と古い歴史を持つ竹林とが石清水八幡宮という歴史的遺産と一体となって歴史的風土を保持しており、周辺地域の都市化が進むなかで貴重な存在となっています。このようなすくねられた歴史的な自然環境を府民の財産として守り、育てていきましょう(京都府ホームページから引用)。

淀川三川合流域と木津川河川敷

木津川河川敷では、ヨシ(アシ)原や砂原、水ぎわで昆虫や鳥を見ることができます。特に、砂原や砂州には、特有の動植物が生息しています。このような環境は京都府南部では木津川流域にしかありません。

河川敷のたまりでは、淡水魚貝類・カメ類・エビ類・水生昆虫などが観察でき、宇治川・木津川の本流には多くの魚類や流水性のサナエトンボが生息しています。



かわきた自然運動公園から下流の導流堤

かわきた自然運動公園の下流側にはエノキ・ムクノキ群落があり、周囲長4m以上のエノキの巨木があります。三川合流域で樹林が残されているのは、この導流堤のみになりました。ここでは多くの貴重な生物が確認されています。桂川は京都北山から流れてきており、増水時に流されてきた山地性の生物も住み着いています。



内里・戸津・美濃山周辺地域

大谷川と防賀川に囲まれた地域は、農耕地が広がっています。水田や開けた環境に生息するカエルや多くの鳥類を見ることができます。河川には淡水魚貝類が生息し、大谷川には貴重種のアサザが見られます。



しょくぶつ 植物



八幡市では728種の植物が確認されました

- 石清水八幡宮がある男山は、平安時代から神域として天然林が保全され、守り続けられています。シイ・カシなどの照葉樹林があり、その林床には貴重なシダ類や草花があります。暖地性の植物が多いことが特徴です。
- 木津川、宇治川、桂川はそれぞれ異なる植物が自生しています。これらが三川合流域で交わり、特殊な生態系を作っています。木津川河川敷の砂原、かわきた導流堤のエノキ・ムクノキ群落は、貴重な自然であり保全が必要です。

男山のシダ植物

男山からはシダ植物52種が確認されました。参道の日当たりの良い崖は、丸い葉のマメツタに覆われています。林床はイノデ、ベニシダ、フモトシダ、ハカタシダ、イワガネソウなどが自生し、湿度の高い環境ではリョウメンシダ、クルマシダ、ウチワゴケなどが観察できます。サクラなどの木には、コケや地衣類とともにノキシノブを見ることができます。

シダ類の同定は難しいですが、葉の形や胞子のうの付き方などを観察すればちがいがわかってきます。



林床のシダ植物



葉の裏表が似ているシダです。



大きな葉のシダです。

表参道に多く見られます。



コケのように見えるシダです。

胞子のう

イワガネソウ

イノデ

シダは胞子を作るよ。
葉裏を見てみよう。
種類により胞子のうの
付き方や形が異なるよ。



クルマシダ(絶滅危惧種)

暖地性のシダで、男山では湿潤な林床に群落を形成しています。



外来生物

外来アカウキクサ類(水生のシダ類)(特定外来生物)

木津川河川敷のたまりに発生したアカウキクサ類。水面を覆いつくします。

男山の種子植物

2016年の調査で、男山からは444種の種子植物が確認されました。巨木が茂り、林床には貴重な植物が多く自生しています。暖地性植物が多いことが特徴です。



タブノキ



クスノキ

高良神社のタブノキは樹齢700年といわれ、京都の自然200選に選ばれています。

男山にはクスノキの巨木が多く、石清水八幡宮の御文庫と神楽殿の巨木は京都府の天然記念物に指定されています。

男山の巨樹

参道や山上周辺には常緑樹が多くスタジイ、イチイガシ、クスノキなどの大木があります。参道の一部の木には種名プレートが付いているので、確認しながら観察ができます。



スタジイ



イチイガシ



ヤブツバキ



カゴノキ



イスノキ



秋にシイ・カシ類、ナラ類にはドングリが実り、参道に落ちていて、種類ごとにドングリの形がちがうよ。観察してみよう。きょうと生物多様性センター+P



イチイガシ アラカシ スタジイ ツブラジイ コナラ アベマキ

男山の草花

八幡の真竹は、エジソンが白熱電球のフィラメントに使用したことで有名です。男山には竹林が多くあり、モウソウチク、マダケ、ハチクが見られます。草花では、春にタチツボスミレやウラシマソウなど多くの花が咲きます。初夏から夏には、林床にアキザキヤツシロラン、コ克蘭、タシロランや暖地性ツル植物のカギカズラが花をつけます。裏参道は湿度が高く、シダ類とともにキミズなどが見られます。



タチツボスミレ



ヤマアイ



キミズ (準絶滅危惧種)



アキザキヤツシロラン (要注目種)



タケ林



コ克蘭 (要注目種)



タシロラン (要注目種)



ウラシマソウ (準絶滅危惧種)



カギカズラ (準絶滅危惧種)

男山は天然林が保全されてきたため、貴重な植物が多く自生しています。

かわら かせんじき おお くさばな み がいらいしよくぶつ そうか 河原や河川敷には多くの草花が見られますが、外来植物が増加しています

さんせんごうりゆういき きづがわかせんじきしよくぶつ 三川合流域と木津川河川敷の植物

木津川・宇治川の堤防や河川敷には、四季を通じていろいろな花が咲きます。特に、春には多くの花が咲き、観察するのに適した時期です。河川敷には、ヤナギ類を中心とした河畔林とヨシやオギ、ススキの群落があり、堤防や林床にはアマナ、オドリコソウなどが自生しています。河川敷や堤防には外来植物が多く自生することも特徴です。

カラシナ



春に堤防一面に咲く黄色い花はカラシナで外来種です。

スギナ(ツクシ)



堤防には早春にツクシが見られます。



河川敷にはオギ、ヨシ類、ススキの群落が広がっています。



河川敷にはヤナギ類などの樹木で河畔林が形成されています。

春の黄色い花

種名の黄色は外来植物を示す

カンサイタンポポ



セイヨウタンポポ



カンサイタンポポ



反り返らない

セイヨウタンポポ



反り返る

シロバナタンポポ



タンポポの種類を見分けてみよう

コメツツメクサ



カタバミ



クサノオウ



トゲミノキツネノボタン



カラシナ



春の白色の花

ハコベ



オドリコソウ



アマナ



ノイバラ



クサイチゴ



春の青～紫の花

オオイヌノフグリ



スマレ



ヒメオドリコソウ



ホトケノザ



ナヨクサフジ



夏～秋の花

カワラナデシコ



ツルボ



ツユクサ



タコノアシ(絶滅寸前種)



カワジシャ(準絶滅危惧種)



サクラタデ



オニユリ



ヒガンバナ



水辺や湿地の在来植物は減少し、絶滅の危機に瀕している種が多くあります。なぜ減少しているのかを考えてみましょう。

し ぜんうんどうこうえん じゅりん
かわきた自然運動公園の樹林

かわきた自然運動公園の下流にはエノキ・ムクノキ群落があります。樹幹の周囲長が4m近い大木が自生しており、林内には貴重種を含む多くの生物が確認されました。山地性の生物もいて、特殊な生物相が形成されています。



あき き み
秋の木の实

秋には多くの植物が実をつけます。エノキ、ムクノキ、外来種のトウネズミモチの実には小鳥が集まってきました。落ちたムクノキの実は、ホンダタヌキ、アライグマが好んで食べています。



ちゆう い ゆうどく しよくぶつ
注意：有毒やトゲのある植物

植物には毒成分やトゲのあるものがあります。これらの植物は、動物に食べられないように進化したものです。観察時には注意しましょう。



さんせんごうりゅういき がいらいしよくぶつ
三川合流域の外来植物

多くの外来植物が自生しており、2016年調査では160種が確認され、その後も増加しています。特に河川敷に多く、伐採後にはアレチウリ、オオブタクサ、ニワウルシが優占種となり、在来種は減少しています。水辺の外来種も増加しており、最近ナガエツルノゲイトウ、オオバナミズキンバイが確認されました。生態系に影響を及ぼす特定外来生物の植物(シダ1種含む)は8種が確認されました。これらの植物はきれいな花でも持ち帰ったり、庭に植えたりしてはいけません。



伐採後の木津川河川敷にはオオブタクサやニワウルシが繁茂しています。

とくていがいらいせいぶつ
特定外来生物とは

外来生物法に基づき、生態系や人間の生命、農林水産業に被害を及ぼすおそれがあるものとして指定された外来生物のことです。これらの生物は、飼養、栽培、保管、生きたままの運搬、輸入、販売、譲渡、野外に放つことなどは原則禁止されています。

せんたいるい そうるい
蘚苔類・藻類
 ちいるい しんきんるい
地衣類・真菌類
 ねんきんるい
粘菌類
 1993年、2016年調査
 では未実施

不思議な生きものたちがたくさんいます

- 八幡市では植物や昆虫、淡水魚類など8グループの生物調査を実施しましたが、まだまだ多くの生物がいます。
- キノコ類やコケ類はよく知られていますが、地衣類や粘菌類など不思議な生物もいます。これらの生物も生態系では大切な役割を持ち、貴重な種も含まれています。

蘚苔類(コケ類)

古くは、コケは「木毛」と書かれており、木に生える毛状の生物や小さな植物を表していたそうです。そのためコケ類だけでなく、地衣類、藻類、植物にも〇〇コケと呼ばれている種があります。男山にはいろいろな種類がありますが、微細な形態を確認する必要があり、種の特定が難しい生物です。



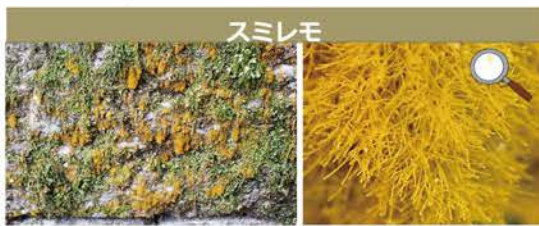
雨の後のコケ類は、水をいっぱい吸収して、鮮やかな色に復活するよ！



冬に宇治川の岸辺で見られます。

藻類

藻類の多くは水生植物ですが、陸上で生活している種もあります。気生藻類と呼ばれ、男山の湿度の高い石の上に、鮮やかなオレンジ色のスミレモが自生しています。



粘菌類

粘菌類は変形菌とも呼ばれています。倒木や落ち葉から発生し、アメーバ状態のものが集合して胞子をつくる不思議な生物です。美しい色彩の種もあります。ルーペで拡大して、観察してみよう。



コケ類、地衣類、キノコ類、粘菌類と昆虫の関係

昆虫の中にはコケ類や地衣類、キノコ類を食べる種や擬態する種がいます。男山にはコケ類や地衣類・キノコ類が多いため、これらを食べる昆虫がたくさん生息しています。ベニボタル類の幼虫は粘菌類を食べることが知られています。



幼虫はコケ類を食べます。

幼虫は地衣類を食べます。地衣類に擬態し昆虫を捕食します。キノコ類に集まります。

幼虫は変形菌類を食べます(幼虫：松田 潔さん撮影)。

地衣類

男山参道の石灯笼や石垣には、灰緑色・黄色・灰色のシミのような模様があります。桜の樹幹には、灰緑色の花のような形のものがあります。これらは地衣類と呼ばれる生物です。

地衣類は特殊な生物で、菌類の中に藻類が取り込まれた共生生物です。この藻が光合成をして、菌類に栄養素を渡しています。ウメノキゴケは1年間に数mm程度成長するといわれており、地衣類は長い年月をかけて成長します。

天然林が保全されてきた男山には多くの種が見られますので、ルーペで拡大して観察してみましょう。いろいろな形や模様があります。

灯笼や石垣にある丸い模様やシミは生物です！



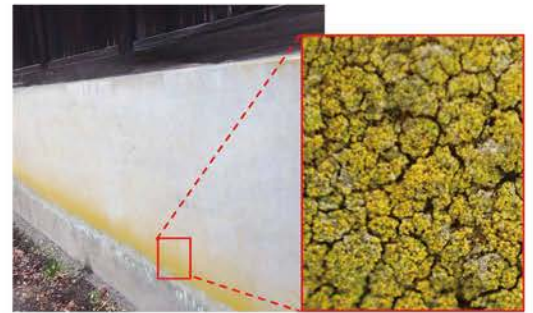
灯笼には多種の地衣類やコケ類が見られます。



桜の幹には多くのウメノキゴケ類が見られます。



石垣にも多くの地衣類があります。



白壁の黄色も地衣類です。



ウメノキゴケ類



ヒメショウゴケの1種



ヘリトゲゴケ(拡大)



モジゴケ類(拡大)

真菌類(キノコ類・カビ類・酵母)

シイタケやナメコは広く知られていますが、自然の中には多くの種類の菌類(キノコ、カビ)がいます。菌類は、枯木や落ち葉を分解している重要な生物です。男山は神域として守られてきたため、多くのキノコ類が発生していましたが、最近はずうずうと少なくなっています。

キノコには猛毒の種もあり、カエンタケは触れることも危険です。



キノガサタケ



カエンタケ



コフキササルノコシカケ



エノキタケ



ヒラタケ(幼菌)



オオワライタケ

たんすいかいるい 淡水貝類



- 琵琶湖・淀川水系の淡水貝類は多くの固有種がいます。
- タナゴ類は二枚貝に産卵するので、淡水貝類は魚類にも重要な生物です。
- 1993年調査で確認された種類が2016年には確認できなくなり、急速に水生生物が少なくなっています。また、外来種も侵入しています。

木津川たまりの淡水貝類

木津川河川敷には細長く大きなたまりがあり、ここには多くの生物が住んでいました。特に、イシガイ、トンガリササノハガイ、ヒメタニシなど多くの貝類がいましたが、1994年から1996年の濁水で水が干上がった後は見られなくなりました。



木津川河川敷のたまり



1996年に干上がったたまり



死滅した貝類
(1996年2月)



8mm程度の小さな貝で、おたにがわかくん大谷川で確認されました。

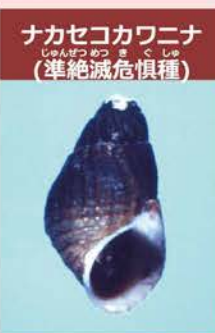


木津川のたまりに多く生息していましたが、外来種のタイワンシジミ種群が侵入し、見られなくなりました。

外来生物



ほとんどの水系に侵入しています。



2016年は未確認



宇治川で多く見られ、石に固着しています。



南米原産でジャンボタニシとも呼ばれています。ピンク色の卵がよく目立ち、八幡市でも広く分布しています。

りくさんかいるい 陸産貝類

1993年、2016年調査
では未実施

びじょう しゅ おお みちよう さ
微小な種が多くいますが未調査です

たんすいけいらい ちくせんかいるい かい
淡水貝類、陸産貝類、エビ・カニ類

- カタツムリはデンデムシの愛称で広く知られている生物です。微小な貝類は多くいますが、同定が難しい生物です。
- 男山ではクチベニマイマイやギュリキマイマイが見られます。
- 三川合流域は増水時に多くの貝類が流下し、本来生息していないニシキマイマイやイブキクロイワマイマイが流れてきたこともあります。
- コハクオナジマイマイなどの外来種も侵入しています。



上流から流下したイブキクロイワマイマイ(上)とナミマイマイ(下)。



ギュリキマイマイ
(準絶滅危惧種)



クチベニマイマイ



オオクマイマイ



キセルガイ類



微小貝類

りくさんかいるい た せいぶつ てんてき 陸産貝類を食べる生物(天敵)



マイマイカブリ



ヒメボタル



コウガイビル類

がいらいせいぶつ 外来生物



チャコウラナメクジ

庭などにいます。



コハクオナジマイマイ
(国内外来種)

河川敷に多く生息しています。

エビ・カニ類

らじむしるい、だんごむしるい、よこえびるいなどは未調査です

- 男山の小川にはサワガニが生息しています。
- 木津川や宇治川にはモクスガニやテナガエビがいて、夜間に活動しています。
- 外来種のアメリカザリガニは市内に広く分布し、特に大谷川には多く生息しています。また、カワリヌマエビ類も侵入し、すでに広く分布しています。



スズエビ類

透明の身体で黒いスジがあり、脚の節が黄色で目立ちます。八幡市では、木津川のたまりや大谷川で確認されています。



テナガエビ

オスはハサミを伸ばすと20cmを超える大型個体があります。八幡市では、木津川、宇治川で確認されています。



モクスガニ(要注目種)

秋に海に下って産卵し、仔ガニが川を遡上します。



サワガニ

水のきれいな水系に住み、八幡市では男山の小川に生息しています。

がいらいせいぶつ 外来生物



アメリカザリガニ
(条件付特定外来生物)

飼育することはできますが、野外に逃がすことはできません。



カワリヌマエビ類

カワリヌマエビ類は、1993年の調査では確認されていませんが、2016年にはほとんどの河川で確認されました。

こんちゅうるい 昆虫類



昆虫類は2,600種以上が確認されました

- 昆虫類は、他の生物に比べて種類が非常に多いことが知られています。
- 八幡市では、2,600種を超える種を確認し、このデータから推定すると5,000種以上が生息していると思われます。
- 八幡市は、男山の天然林や異なる環境の川が交わる三川合流域、かつてあった巨椋池など、多様な水辺環境により昆虫類の多様性が豊かです。

ヤンマの仲間

男山ではオニヤンマが小川の上を飛んでおり、夕暮れ時には上空高く飛ぶヤンマ類も見られます。



アカトンボの仲間

八幡市では11種のアカトンボが確認されていますが、個体数は減少しています。



アカトンボの見分け方

ハネの先端の模様や胸の模様で見分けることができるよ。
この2ヶ所の写真を撮って、図鑑で調べてみよう。

カマキリの仲間

八幡市では7種のカマキリが確認されています。男山には、小さなヒメカマキリやヒナカマキリもいます。最近、外来種のムネアカハラビロカマキリが確認されました。



外来生物

ムネアカハラビロカマキリ

2025年男山で確認しました。

鳴く虫の仲間

日本では鳴く虫の鳴き声を楽しむ文化があり、江戸時代には鳴く虫を売る人がいたそうです。夏の終わりから晩秋まで、いろいろな種類が鳴いています。木津川堤防は鳴き声を聞くのに適しており、美しい音色を楽しむことができます。



アカハネオンブバッタ

在来のオンブバッタが減少しています。

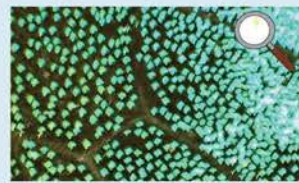
アゲハチョウの仲間

八幡市では11種のアゲハチョウが確認されています。庭にミカン類が植えたとナミアゲハ、ナガサキアゲハが産卵に来ます。男山ではクロ・オナガ・モンキ・カラス・ミヤマカラスアゲハが見られます。木津川河川敷にはキアゲハ、ジャコウアゲハ、外来種のホソオチョウが見られます。



チョウ・ガの模様

チョウのハネを拡大すると小さな点々が見えますが、これは鱗粉です。微小な鱗粉で様々な色彩や模様ができています。



カラスアゲハの鱗粉

テントウムシの仲間

テントウムシは種類が多く、八幡市では47種のテントウムシが確認されています。2016年調査時より3種増加しましたが、全て外来種でした。ナミテントウやヒメカメノコテントウは多様な斑紋の変異があります。



二次元コードからテントウムシみわけ図鑑が見られるよ。京都府に生息する種が調べられるのでチャレンジしてみよう！



きょうと生物多様性センターHP ▶



クワガタムシの仲間

八幡市では8種のクワガタが確認されています。幼虫は朽木を食べて、成虫になるとナラ類、ヤナギ類などの樹液に集まります。ミヤマクワガタは、1990年代は男山でよく見られましたが、近年は見られなくなりました。コクワガタ、スジクワガタ、ヒラタクワガタは今も見られます。オオクワガタは、生存個体は確認されていません。河川敷のヤナギ類の朽木にはコクワガタ、ヒラタクワガタの幼虫がいます。6月頃にはヤナギの樹液に集まるクワガタが見られましたが、御幸橋周辺のヤナギが伐採され、樹液に集まる虫は見つけにくくなりました。



外来生物



チュウゴクアミガサハゴロモ



アメリカピンクノメイガ



シタベニハゴロモ

クビアカツヤカミキリ (特定外来生物)



八幡市では2025年に確認されました(写真は枚方市にて撮影)。

幼虫の食草はサルビアの花

クモの種類が多いのは、餌となる動物がたくさんいるからです

クモ類

1993年、2016年調査
では未調査

- 同定が難しく、八幡市ではクモ類は未調査です。
- クモ類は餌となる動物が多様であれば、多くの種類が生息できます。
- 男山からは貴重種のキシノウエトタテグモ、キノボリトタテグモ、ヒトエグモ、ドウシグモが記録されています。

クモ類

クモ類は、種類によって網の張り方や獲物の捕獲方法がちがひ、網を張らず歩き回って獲物を捕らえる種類（徘徊性クモ）もあります。クモの巣を観察すると興味深いことを発見できるでしょう。

ハエトリグモ類は代表的な徘徊性クモで、その性質から眼（単眼）が発達しており、ユニークな顔をしています。

京都府の目録（2015）には、357種のクモ類が記録されています。残念ながら八幡市は、クモ類の調査をしておらず、何種類が生息しているかわかっていません。



コガタコガネグモの円網

男山

男山には多くのクモが生息しており、ジョロウグモやコガネグモの巣（円網）が目立ちます。崖や石垣の隙間にはミヤグモの巣も多く見られます。灯籠などの隙間にはヒトエグモやアワセグモなど、珍しい種も生息しています。



ジョロウグモ



ミヤグモと巣穴



アワセグモ



ヒトエグモ（絶滅危惧種）

神社の灯籠の隙間などで発見されている珍しい種です（藤野義人さん撮影）。

参道に大きな円網を張っています。参道の崖や石垣の隙間に巣を作っています。

三川合流域

三川の河川敷では徘徊性のコモリグモ類やハシリグモ類が多く、草原ではナガコガネグモやササグモ、草花ではハナグモ類が観察できます。クサグモはシート状の網を張っているのによく目立ちます。



イオウイロハシリグモ



クサグモと巣



ササグモ



ヤハズハエトリ

キシノウエトタテグモ（準絶滅危惧種）



土を掘って蓋のある巣穴を作り、蓋の隙間から覗いて獲物を待ち構えます。男山、かわきたに生息しています。

外来生物

セアカゴケグモ（特定外来生物）



注意

毒グモとして知られています。側溝や自動販売機の下など、地表近くの隙間にいます。触らないようにしましょう。

どじょうどうぶつ 土壤動物

1993年、2016年調査
では未調査

- 同定が難しい土壤動物は未調査です。
- 土の中には多くの動物がいて、真菌類とともに落ち葉や腐葉土を分解しています。生態系の中で重要な生物ですが、微小な種が多く同定が難しいグループです。
- 男山は、乾燥化などで土壤動物が減少している可能性があります。

どじょうどうぶつ 土壤動物

土壤には、落ち葉や枯木、またそれに発生したキノコやカビ（真菌）などを食べるトビムシ、ダニ類（ササラダニなど）、ワラジムシ、ダンゴムシなどの多くの動物（分解者）がいます。また、これらの分解者を捕食するムカデ、カニムシなどの動物もいます。

ミミズも分解者であり、土の有機物を食べ土壌を耕します。分解された物質や糞は、さらにバクテリアにより分解され、栄養素として植物に吸収されます。そのため、分解者がいなくなると植物は生育できなくなります。

土壤の微小な動物は、落ち葉や土をふるいにかけて調査します。八幡市では未調査です。

シーボルトミミズ



ミミズは土を耕し、植物に適した土壌を作ります。男山では、雨の後に青い大きなシーボルトミミズが見られました。

トビズムカデ



注意

ムカデ類は捕食性で鋭い牙を持っています。噛まれないように注意。

ハバヤステの1種



夜間ブラックライトを当てて撮影

ハバヤステ類は紫外線を当てると発光します。なぜ光るのかわかっていません。

マクラギヤステの1種



カニムシ類



数mmの大きさで、尾のないサソリのような形をしています。土の中の小動物を捕食しています。

ササラダニ類



土の中にはササラダニ類がたくさんいて、落ち葉を分解しています。これらのダニは人を刺すことはありません。

ザトウムシ類



長い脚で地表をゆっくりと歩いています。男山で稀に観察できます。

トビムシ類



以前は昆虫類に含まれていましたが、現在は別グループに分類されています(伊藤建夫さん撮影)。

小さな動物は拡大すると面白い!

どじょう 土壤

落ち葉はどうなるのかな？ 落ちた葉には真菌(キノコ、カビ)が発生するよ。また、落ち葉や真菌を土壤動物が食べて細かく分解し、腐葉土となって、これらをミミズなどが食べて土と混ぜることで、豊かな土壌ができていくんだね。



落ち葉 昨年の落ち葉 腐葉土 土

がいらいせいぶつ 外来生物

オカダンゴムシ



公園や家庭の庭にいるダンゴムシ、ワラジムシは外来種の可能性が高いです。

ナミワラジムシ



たんすいぎょるい 淡水魚類



八幡市にはたくさんの魚が生息していましたが...

水辺には一人で
行かないこと！

- 八幡市の調査では50種の淡水魚が記録されました。
- ボラやアユなどの遡上する種や外来種は増加しましたが、在来種は激減しました。
- 特定外来生物のチャネルキャットフィッシュは2019年に確認されました。
- 種により減少する原因は異なりますが、多くの種が生息できてこそ安定した生物多様性が守られます。

稚魚のゆりかご 一時的水域

木津川の岸边には、雨などにより増水した水が減少していくと、周囲より低いところに一時的水域ができます。一時的水域は、多くの在来種の産卵場所となり、稚魚が住んでいます。しかし、砂が減少し一時的水域はなくなりつつあります。



一時的水域の稚魚の群れ



コイ

外来種の可能性があります。



ニゴイ類



ギンブナ



オイカワ

木津川では減少しました。



ヌマムツ(準絶滅危惧種)



ウグイ



コウライモロコ



タモロコ



モツゴ



ヨドゼゼラ(準絶滅危惧種)

淀川で発見された種です。



ワタカ(要注目種)

最近は見られなくなりました。



カマツカ

砂底の所に生息しています。



シロヒレタビラ(絶滅危惧種)

最近は見られなくなりました。



カネヒラ(絶滅危惧種)

外来生物



ソウギョ



1960年代に食用として中国からソウギョ、アオウオ、ハクレン、コクレンが淀川に放流されました。



タイリクバラタナゴ

この種が侵入したために、八幡市では在来種のニッポンバラタナゴは絶滅しました。



がいらいせいぶつ 外来生物

カダヤシ(特定外来生物)



飼育され逸出した個体の可能性もあります。



砂底の所に生息しています。



2016年の調査時には、前回調査時に確認できなかったドジョウが確認できました。その後のDNA調査で、木津川に生息する個体は、中国大陸の遺伝子を持つ外来種であることがわかりました。大谷川に生息する個体はどちらなのかわかっていません。



海から遡上してくる種

八幡市には、大阪湾から遡上してくる魚類が多くいます。5~6月ごろに若アユやボラの遡上が見られます。特に2010年以降から個体数が多く確認されるようになりました。



宇治川では2015年には確認されなかったカワアナゴやゴクラクハゼも見られるようになりました。

がいらいせいぶつ 外来生物



2019年に確認し、すでに繁殖していると思われます。在来種への影響が懸念されます。



りょうせいらい 両生類



こたいすう げんしょう しゅ まち
個体数が減少している種がいます。守っていきましょう！

- 八幡市では6種のカエルが確認されています。木津川のワンド、大谷川、防賀川、内里の田んぼや水路に生息しています。ヌマガエル以外は以前より少なくなりました。
- サンショウウオ類は、かつて男山にいたという情報があり、どこかでひっそりと生息しているかもしれません。

カエル類



ニホンアマガエル



ツチガエル(要注目種)



ヌマガエル(要注目種)

ツチガエルは腹面がだんだら模様、ヌマガエルは白色で区別できます。

京都府レッドリストでは2023年の改定でヌマガエル、トノサマガエル、ツチガエルはランク外に変更されました。

しかし、八幡市ではツチガエル、トノサマガエルは以前よりも個体数が減少していると思われる。



トノサマガエル(要注目種)



外来生物

ウシガエル(特定外来生物)



食用として人為的に移入され、野生化して広がっていきました。他のカエルや昆虫、小鳥や小型のほ乳類まで食べ、在来生物への影響が心配されています。八幡市でも水辺に広く生息しています。



シュレーゲルアオガエル(要注目種)

はちゅうらい 爬虫類



- 爬虫類は、多くの種がレッドリストに掲載されており、個体数も減っています。
- ヘビ類は6種が確認されていますが、シマヘビ以外の生息数は少ないようです。
- トカゲ類はニホントカゲとニホンカナヘビがいます。
- カメ類は外来種が多く、ミシシippアカミミガメが増加しています。2025年には大型のワニガメが宇治川で確認されました。

ヤモリ、トカゲ類

ニホントカゲは男山参道に多く、ニホンヤモリは灯籠の石の隙間にて、夜間に虫を食べています。ニホンカナヘビは河川敷に多く生息しています。



ニホンヤモリ



ニホントカゲ(要注目種)



ニホンカナヘビ

朽木の中で越冬

へび類

シマヘビは市内でよく見られ、男山やかかわきたに生息しています。マムシは少ないですが、草むらに入る時には注意が必要です。珍しいヘビといわれるタカチホヘビが男山で確認されています。



シマヘビ



アオダイショウ(要注目種)



ヒバカリ(要注目種)



ニホンマムシ(要注目種)



ジムグリ(要注目種)



タカチホヘビ(要注目種)

松本吏樹郎さん撮影

カメ類



ニホンスッポン(要注目種)

宇治川、木津川に多く生息しています。



クサガメ(要注目種)

つままえると臭いにおいを出します。



ミナミイシガメ
(準絶滅危惧種)

京都府レッドリスト2023の改定において、クサガメとミナミイシガメは外来種の可能性があるため、ランク外に変更されました。



ニホンイシガメ(要注目種)

宇治川、木津川に生息していますが、最近では少なくなりました。

腹面の違い



ニホンイシガメ



クサガメ



ミナミイシガメ



ミシシippアカミミガメ

外来生物

ミシシippアカミミガメ
(条件付特定外来生物)



八幡市に広く分布。

ワニガメ
(特定外来生物)



2025年に宇治川で1m近い大型個体が釣りて確認されました(釣人:中田啓三さん、撮影:池田勝之さん)。

ちょうるい 鳥類



八幡市にはたくさんの野鳥がくらしています！

- 八幡市では外来種6種を含む162種が確認されており、多くの鳥たちを観察できます。京都府レッドリスト選定種は57種も記録されました。
- 八幡市には三川合流域や男山の天然林、また、内里の農耕地や大谷川、防賀川など多様な環境があるため、四季折々にいろいろな種が観察できます。



キジ

キジは日本の国鳥で、河川敷などで見られます。オスは美しい色彩ですが、メスは茶色く目立たない色をしています。

八幡市の鳥：シジュウカラ



1992年に八幡市の鳥にシジュウカラが指定されました(裏表紙参照)。

胸からお尻にかけてネクタイのような黒い帯状の模様があるよ。



みずべ 水辺の鳥

八幡市にある三川合流域や大谷川、防賀川などの水辺は、多くの鳥が集まりバードウォッチングに最適な場所です。特に、冬はカモ類をはじめ多くの水鳥が三川合流域で観察できます。



マガモ



カルガモ



コガモ(冬鳥)



カワアイサ(冬鳥)
(準絶滅危惧種)



キンクロハジロ(冬鳥)

カモの仲間は15種が確認されています。写真はオスで、メスは地味な色をしています。冬に木津川や宇治川でたくさんの種類を観察できます。



ホシハジロ(冬鳥)



ヒドリガモ(冬鳥)



オオバン(冬鳥)
(準絶滅危惧種)



カワウ



カワセミ

個体数が増加しています。



コサギ



ダイサギ



アマサギ(夏鳥)



アオサギ

若鳥



ゴイサギ

サギの仲間は観察しやすい鳥です。大谷川や田んぼなどで魚を取る様子を観察してみましょう。

猛禽 (タカ・ハヤブサ・フクロウ) の仲間

猛禽類は生態ピラミッドの頂点にいる生物で、餌となる動物がたくさんいるところに生息しています。しかし、その多くの種がレッドリストに掲載されており、減少傾向にあります。八幡市では多くの種類が確認されており、三川合流域や男山で上空を眺めると、飛んでいるタカやハヤブサの仲間を見ることができます。



トビ



オオタカ
(絶滅危惧種)



ミサゴ
(絶滅危惧種)



ノスリ(冬鳥)
(準絶滅危惧種)



チョウゲンボウ
(絶滅危惧種)

この写真の種類以外にも、ハイタカ、ツミ、サシバ、ハイイロチュウヒ、ハヤブサ、アオバスクなどが確認されています。

や わ た し み とり
 八幡市でよく見られる鳥



スズメ



ヒヨドリ



メジロ



キジバト



ムクドリ



カワラヒワ



モズ



エナガ



ハシブトガラス



ハシボソガラス



ツグミ(冬鳥)



ウグイス



コゲラ



ハクセキレイ



ツバメ(夏鳥)



イソヒヨドリ

最近、増加しています。

わた どり りゅうちよう
 渡り鳥と留鳥

季節によって渡ってくる鳥を「渡り鳥」、一年を通して同じ地域で見られる鳥を「留鳥」といいます。渡り鳥は季節によって出会う種類が異なり、夏にしか見られない鳥を「夏鳥」、冬にしか見られない鳥を「冬鳥」といいます。夏鳥は子育てをするため、十分にエサがとれる場所を求めて、主に東南アジアから日本に渡ってきます。冬鳥は、雪でエサがとれなくなる前に、ロシアなどから日本へ渡ってきます。



はね お 落ちてい
 たら、種類を調べ
 てみよう！



鳥は羽根が生え変わるので、地面に羽根が落ちているよ。

がいらいせいぶつ
 外来生物

カワラバト(ドバト)



身近な鳥ですが外来種です。伝令鳥や食用に利用されていました。

ソウシチョウ(特定外来生物)



美しい鳥で、ペットとして飼われていたものが逃げたといわれています(稲畑憲昭さん撮影)。

にゅうるい ほ乳類



夜行性の種が多く昼間は見かけることが少ないですが、
多くの種が暮らしています

- 八幡市では 19種のほ乳類が確認されました。そのうち外来種は 7種で、ノイヌやノネコも確認されました。これらは在来種を食べたり、住処を奪ったりします。
- 草地在が広がる木津川の河川敷やまとまった樹林のある男山、かわきた自然運動公園で多く見られます。
- 三川合流域や木津川のオギやヨシ群落などに、希少種であるホンシュウカヤネズミの巣が見られます。ホンドキツネは、かわきた自然運動公園下流側の林に生息しています。

ホンシュウカヤネズミ(準絶滅危惧種)



体長は大人の親指サイズで、日本最小のネズミです。河川敷のオギやヨシなどに、球形の巣を作って子育てをします。木津川、宇治川の河川敷に巣が見られます。

ホンドアカネズミ



野外の代表的なネズミで、広く生息しています。オニグルミの固い殻に穴をあけて食べます。オニグルミ ホンドアカネズミの食痕

ホンシュウヒミズ



小型のモグラで、地下に掘ったトンネルや地表で活動し、ミミズや昆虫、果実や種子を食べます。男山の森林や木津川、大谷川の土手などに生息しています。

外来生物

ハツカネズミ



ハツカネズミのほか、ドブネズミやクマネズミも外来種で、人家や農耕地などに生息しています。

生息の痕跡

多くのほ乳類は夜行性で、姿を見ることは難しいけど、足跡や糞で生息していることを知ることができるよ。



写真はアライグマの足跡だよ。2016年の調査ではノウサギ、ニホンイノシシの足跡が確認されているよ。

コウベモグラ



河川敷や農耕地などの開けた草地に生息する大型のモグラです。地下にトンネルを掘って、地中の昆虫やミミズなどを食べます。モグラ塚があれば生息していることがわかります。

アブラコウモリ



八幡市でよく見られるものは、アブラコウモリと思われれます。日没後に開けた場所を飛び回り、昆虫を捕らえます(西納春雄さん、西納由美さん撮影)。

外来生物

ヌートリア(特定外来生物)



オギやヨシ、水草類や農作物を食べることもあります。泳ぎが得意で、木津川、宇治川、大谷川の水辺に生息しています。

ホンドタヌキ



溜糞場

糞中のプラスチック片

タヌキは決まったところに糞をする習性があり、糞をした場所（溜糞場）を見ると何を食べているのかがわかります。食べ物は季節により変化し、主に昆虫や木の実を食べ、秋にはムクノキの実をたくさん食べます。糞の中にプラスチックごみが含まれているものもありました。人がポイ捨てしたごみを野生動物が誤って食べてしまうなど、地域の自然環境に被害を及ぼしてしまうので、ポイ捨てはしないでください。

ホンドキツネ(要注目種)



ネズミ、鳥、昆虫、果実などを食べます。かわきたでは2021年以降によく見かけるようになりました。

糞のゆくえ

動物が落とす糞はどうなるのかな？
糞には栄養分があり、多くの動物が利用するよ。春から夏には、写真のような糞を食べる糞虫をはじめ、多くの昆虫が集まってくるよ。



コブマルエンマコガネ



センチコガネ



溜糞に集まるキジバト

ホンドタヌキの秋の溜糞場には、キジバトやイカルなどの鳥が、未消化のムクノキの種を食べに集まるよ。

ホンドテン



アナグマ



この2種は2016年の調査では確認されていませんでしたが、かわきた自然運動公園下流の林内に生息していることがわかりました。

がいらいせいぶつ
外来生物

アライグマ(特定外来生物)



農作物のほか、さまざまな小動物や果実を食べます。大谷川、木津川、宇治川、河川敷などで確認しました。

ハクビシン



2016年の調査では確認されていませんが、2024年にかわきた自然運動公園の下流側で生息を確認しました。

シベリアイタチ(チョウセンイタチ)



ノネコ



捨てられ野生化したノネコは野鳥や小動物を襲い、生態系に悪影響を与えます。ペットのネコやイヌは最後まで責任をもって飼いましょう。

せいぶつ げんしょう 生物の減少

なぜ、生物が減少しているのか考えてみよう！

せいぶつ さが 生物を探そう

- 2回の調査で、減少している種が多くいることがわかりました。
- 豊かな生物多様性を持つ「八幡のまち」を未来に引き継ぐために大切なことは何かを考えてみましょう。

かくにん しゅ 確認できなくなった種

第1回調査(1993)と第2回調査(2016)を比べると少なくなった生物がいます。特に、水辺の淡水魚貝類、湿地や砂原に適応した昆虫が見られなくなりました。男山でも、オオムラサキなど見られなくなった種がいます。生物多様性を保全するためには、ポイ捨てやペットを逃がすなどをしないことはもちろん、美化活動や自然とふれあうことが大切です。また、自然環境や生物の変化を定期的に調査し確認する必要があります。

せいぶつ えいきょう あた かんきょう へん かわ 生物に影響を与える環境の変化

か せんじき ぼっさい がいらいしよくぶつ はん ち 河川敷の伐採、外来植物の繁茂



き づがわ さが せんじき ぼっさい ごと
木津川左岸河川敷 伐採後

がいらいしよくぶつ はん ち
外来種のアレチウリやオオブタクサなどが繁茂

おん だん かの どじょう かんそう 温暖化と土壌の乾燥

おん だん かの どじょう かんそう
男山は天然林が保全されていますが、生物は減少しています。温暖化や林床の乾燥などが生物に影響を与えていると考えられます。

か せん そうすい かつすい すな げんしょう 河川の増水・濁水、砂の減少



き づがわ つうじょう すい い
木津川 通常の水位

ねん だい じゅう こと
2013年台風18号

おお ありめ たいふう
大雨や台風により河川が増水すると上流からいろいろなものが流れてきます。生物も流され、増水後にはそれまで見られなかった生物が確認されます(注意：増水時は絶対に近づかないでください)。
また、砂の減少により河床が低下し、砂原、砂州の環境が変化しています。

さが しら はっけん 探そう、調べよう、発見しよう！

せいぶつ
生物はわかっていないことがたくさんあり、毎年新しい発見が報告されています。八幡市にも新種(未記録種)がいますが、その多くは微小な種や分類が難しい種です。

せいぶつ さが 生物を探そう

せいぶつ さが
生物を探してみよう。男山の参道や木津川の堤防、かわきた自然運動公園などが生物の観察に適しています。

とくちよう きろく 特徴を記録しよう

ちい せいぶつ かんさつ きろく つか
小さな生物はルーペで観察しましょう。記録は、ルーペを使ってデジカメやスマートフォンで写真を撮影することもできますが、イラストを描くと特徴を覚えられます。また色彩や大きさ(体長など)、高さ(植物)なども記録しておきましょう。

きろく 記録をノートにつけておこう

さつえい ばしょ ひ てんこう
撮影した場所、日にち、天候、どんなところにいたかなど、気がついたことを記録しておきましょう。

せいぶつ まな 生物について学ぼう

きょうと し せいしやうねん かがく 京都市青少年科学センター

かすおおの たいげんがた てんしひん
数多くの体験型の展示品があり、生物・化石・鉱物・天体など、理科・科学を学べる施設です。
ぜひ、見学に行きましょう。



きょうと し せいしやうねん かがく
◀京都市青少年科学センターHP

きょうと し せいしやうねん かがく
京都市青少年科学センター提供

しぜんかんさつ

自然観察の
ちゅういてん
注意点

- 男山は、参道やひだまりルート、せせらぎルートで観察してください。男山の一部は京都府歴史的な自然環境保全地域に指定されており、動植物の採集が禁止されています。
- 水辺の観察時は天気予報を確認し、一人で行かず、必ず大人と一緒に観察してください。
- 洪水時や増水時には水辺に近寄らないでください(急に増水することがあります)。
- 服装はカヤダニに刺されないように長袖、長ズボンを着て、肌の露出を少なくしてください。
- ほ乳類や鳥類の死骸、糞は素手で触れないでください(病原菌がいる可能性があります)。
- ごみを捨てないこと！

スズメバチ



オオスズメバチ



オオスズメバチの巣盤



スズメバチ類の巣

スズメバチは土の中や草むら、樹木のうろなどに巣をつくりまします。巣に近づくことやいたずらはしないでください。帽子や服装は白いものを着るようにしましょう。

がいらいせいぶつ
外来生物

特定外来生物に指定されている生物は飼養、栽培、保管・生きたままの運搬、譲渡、放出等が原則禁止されています(8ページ参照)。オオキンケイギク、ナルトサワギクなどは美しい花を咲かせますが、持ち帰ることはできません。条件付特定外来生物に指定されているアメリカザリガニ、ミシシippアカミミガメは、飼育することはできませんが逃がすことはできません。2025年にはサクラやウメを枯らすクビアカツヤカミキリ(特定外来生物)が八幡市で初確認されました。

ひがい
ごみの被害

ごみは生物に悪影響を与えます。三川合流域や大谷川にはペットボトル、ビニール袋が多く捨てられています。捨てられた釣り糸や釣り針は、鳥に絡まることもあります。

チャンネルキャットフィッシュの胃内容物の調査では、大きな樹脂やビニールひもが確認されました。これらは消化されないために胃に詰まっていた。

ごみは野外にポイ捨てせず持ち帰りましょう。



不法投棄されたごみ



上:チャンネルキャットフィッシュの胃
下:胃から出てきた樹脂

やわたし とく
八幡市の取り組み

しぜんかんさつかい
自然観察会

八幡市では自然観察会を開催しています。植物や昆虫を学ぶことができます。

やわたのまちの小さな仲間たちフォトコンテスト

八幡市では毎年、八幡市に生息する野生生物のフォトコンテストを行っていますので、写真を撮って応募してください。



令和7年度やわたのまちの小さな仲間たち
フォトコンテスト
大賞 「甘い匂いに誘われて」山田悠生さん

本冊子にご協力いただいた皆さま(敬称略)

京都府総合政策環境部自然環境保全課、京都市青少年科学センター、きょうと生物多様性センター
石清水八幡宮、八幡市教育委員会、

1993年、2016年調査

出口由美子、土生陽子、畠 佐代子、林 都、林 吉高、稲垣勝彦、伊藤建夫、金信雄也、金田敦男、川島永子、紀平 肇、小池孝彦、小室 巧、萬田悠二、松田征也、西田 勇、二村一男、清水 正、白石恵美子、田邊育宏、高瀬律子、高山茂行、谷 壽一、

本冊子作成

藤野義人、稲畑憲昭、池田勝之、伊藤建夫、加村隆英、河野 弘、松本吏樹郎、西納春雄、西納由美、清水 正、中田啓三、丹下研也、谷 智子、上西 実、
編集:八幡市環境政策課、谷 壽一、

生物調査結果の詳細や参考文献は報告書(八幡のまちの小さな仲間たち2016)をご参照ください。



やわたし とり
八幡市の鳥 しじゅうから (平成4年12月10日制定)

市制施行15周年を記念して、市民へのアンケート調査結果などを参考に、自然環境保全のシンボルとして制定しました。

しじゅうからは、市内のほぼ全域で1年を通して見られます。

保護者の皆様へのお願い

子どもの時から自然や生物に親しむことは豊かな感性を育てるといわれています。しかし、自然には危険なこともあります。同行し、安全であるかどうかを目を離さずに見守ってください。

特に、水辺では注意し、子どもたちから絶対に目を離さないでください。木津川は、砂地で浅いように見えますが、場所によっては急流や、すり鉢状に深くなっているところがあります。宇治川は、岸边から深くなり急流の場所が多いので、水の中に入らないでください。

河川は、上流で雨が降ると急に川が増水することがあります。自然観察時には天気予報を確認してください。

ハチ毒にアレルギーがある場合は、緊急対応できる薬を携帯してください。

八幡市では、自然観察会を開催しています。ご参加をお待ちしています。

この冊子は八幡市が1993年、2016年に実施した生物多様性調査報告書に最新の情報を加えて、小学生を対象として作成いたしました。詳細は報告書をご参照ください。

八幡のまちの小さな仲間たち 概要版 令和8年(2026年)4月改訂

発行 八幡市 問い合わせ先 環境政策課 TEL 075-983-2795 (直通)

※本書の全部または一部を無断で複製複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。複製複製する場合は八幡市の許諾を得てください。